福 坂井美穂（公明党）



高齢者肺炎球菌感染症の予防とPCV20の接種機会の確保

問 令和8年4月1日現在で66歳以上となる方の高齢者肺炎球菌ワクチンの接種状況を把握していますか。

答 これまでに高齢者肺炎球菌ワクチンを接種した方は1万3千240人、一度も接種していない方は1万5千227人です。

問 健康被害救済制度を踏まえ、任意接種費用への助成を行いませんか。

答 任意接種への公費助成は市民に定期接種と変わりない安心感を与えると推測できますが、本市は独自に助成を行って接種を推奨することは慎重であるべきと考えており、従来から任意接種費用への助成は行わない方針としています。

問 定期接種の機会を逃した方にPCV20の任意接種費用を助成してはどうですか。

答 特例措置の期間中に接種機会を適切かつ公平に提供しており、計画的に接種された方との公平性から助成を行う考えはありません。

問 過去にPPSV23を接種した方について、接種歴やPCV20の接種を必要と判断した場合、独自の助成を行う考えはありませんか。

答 国が定めた定期接種に準拠して確実に実施することが極めて重要であると考えています。現時点において独自の費用助成を行う予定はありません。再接種の定期接種化については、国の動向を十分に注視していきます。



福 麻生七海（公明党）



膵臓がんの早期発見・早期治療に向けた取組み

問 がんの死因に占める膵臓がんの割合について伺います。

答 がんによる死亡者数は332人で、この内、膵臓がんによる死亡者数は30人で、がんによる死亡者数全体の9％を占めています。

問 特定健診で膵臓がんに繋がる可能性のある血糖値に異常が認められた際の対応について伺います。

答 リスクが軽度の方には生活習慣の改善指導を、中等度以上の方には、医療機関の受診案内を行っています。

問 特定健診の通知に膵臓がんの危険因子を判断できる啓発資料を同封し、がんが疑われる場合は、かかりつけ医への相談を促すなど一歩進んだ呼びかけが必要と考えますが見解を伺います。

答 今後は受診券を送付する際に膵臓がんの危険因子をセルフチェックできる啓発チラシを同封し、早期発見や予防に向けた行動に繋がるよう呼びかけていきます。

問 膵臓がんの早期発見に向け、半田市医師会や知多半島総合医療機構とスクリーニング連携システムの導入について協議を進めるべきと考えますが見解を伺います。

答 機構へは導入に向けたアプローチを進めているところです。専門医や医療スタッフの確保、医師会とのルールづくり等、多くの課題があるため即座の導入はできませんが、今後も尾道方式の導入事例を参考に機構へ働きかけ、実現するよう取組んでいきます。



ま 伊藤正興（チャレンジはんだ）



コンテナ型トイレのさらなる活用と認知度向上

問 どのような経緯でコンテナ型トイレを導入しましたか。

答 国において災害時の避難所での生活環境を改善するための新たな交付金が創設され自治体における防災対策の強化が進められました。本市も国の動向を踏まえ平時にも活用できる防災資機材の整備について検討し導入しました。

問 イベント等で活用し認知度向上を図る必要があると考えますが見解を伺います。

答 災害時の円滑な活用に向け、市民の認知度向上を図ることは重要であり、今後もイベントや防災訓練等で積極的に活用していきます。

災害時における井戸水の活用

問 井戸水提供の家の制度拡大について再検討する考えはありますか。

答 今回の熊本地震では生活用水を確保する手段として井戸水の存在意義が非常に高まりました。本市も井戸水提供の家の制度拡大を水道事業と連携を図りながら検討を進めていきます。

問 現在使用していない井戸を活用するため、手押しポンプの整備費用を補助金として支援することを提案しますが見解を伺います。

答 既に井戸水提供の家に登録いただいている所有者との均衡を考慮する必要等もあるため、現時点で補助制度を設ける考えはありません。





コンテナ型トイレ